

平成29年2月20日

狭山市教育委員会
教育長 向野 康雄 様

狭山市立入間野小学校
校長 小俣 恵美子

平成29年度 狭山市立入間野小学校自己評価書

1 本年度の重点目標

- (1) 学校課題研究 特別活動「めあてを明確にもち、所属する集団のために実践していく学級活動の創造」の推進
- (2) 知識・技能の確実な習得と活用する力の育成
- (3) 運動の日常化と進んで運動する児童の育成
- (4) よりよい人間関係を築き、協力し、自主的に活動する児童の育成
- (5) 積極的な学校応援団・SSVCの活用による教育活動の充実
- (6) 安心・安全な学校づくりの推進
- (7) 職員室の美化と、美しい言葉づかいによる教育環境の整備
- (8) 家庭、地域、関係機関と連携した教育活動の推進
- (9) 教職員の人材育成

2 本年度の経営方針

教職員一丸となって、児童一人一人と集団をよりよく変容させ、学校への信頼を得る

3 自己評価結果

【評価の目安】 A：よくできている(90%) B：概ねできている(75%) C：あまりできていない(60%) D：できていない(60%未満)

項目	観 点	達成状況	改 善 の 方 策	
	1 学校教育目標（知・徳・体の調和のとれた児童の育成）		<ul style="list-style-type: none"> ・所属する集団のために考え行動する児童の育成のため、来年度も、「仲よくする子」に重点を置いて指導する。 	
1	「仲よくする子」は具現化できたか。(目を見て挨拶、「オアシスこ」が言える、集団のために考え行動できる。)	B		
2	「考える子」は具現化できたか。(届く声で話す、文字を丁寧に書く、進んで家庭学習や読書に取り組む。)	B		
3	「やりぬく子」は具現化できたか。(あきらめず時間いっぱい取り組む、進んで運動する、危機管理能力を身に付ける。)	B		
	2 教育課程（学力向上プランの推進）		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度学校課題研究として、「単元を貫く言語活動による国語科授業研究」に全校一丸となって取り組んだ。ここで得た教育財産を生かし、引き続き指導を重ねていくことができている。 ・全学級に、ICTを効果的に活用し、デジタル教科書や書画カメラの利用が図られた。 ・学習課題の明示はできているが、児童の言葉によるまとめができるよう、展開の終末の時間を確保する。 ・単元を見通した教材研究や学習過程を立案できるようにしていく。 ・相手の考えを分かろうとして問い返し、考えを深められる児童の育成を重点として指導する。 	
4	確実な学力を身に付けさせる補充学習ができたか。	A		
5	習熟の程度に応じた算数科の少人数指導はできたか。	B		
6	下敷きと消しゴムを使用したノート指導はできたか。	A		
7	「家庭学習の手引き」による家庭学習の習慣化はできたか。	B		
8	正しい姿勢と返事の仕方、統一した号令はできたか。	B		
9	問題解決的な学習過程はできたか。	B		
10	学習のめあての明示と児童のこぼれによるまとめはできたか。	B		
11	単元を貫く「言語活動」による国語科指導はできたか。	B		
12	話し合いのめあてと活かし方を提示したグループ学習はできたか	B		
13	ICTを効果的に活用した授業はできたか。	B		
14	並行読書や家庭学習の習慣化により、一ヶ月に3冊以上本を読むことができたか。	B		
	3 道徳教育（豊かな心の育成プランの推進）			<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の学校公開日に実施する道徳の授業を学年で研修し、児童の実態に即した、ねらいとする価値を高める、ぶれない指導方法を身に付けるようにしていく。
15	全体計画を理解し、全教育活動を通して、道徳教育を実践できたか。	B		
16	道徳の時間が児童の実態把握に基づき、計画的に実践できたか。	C		
17	ねらいとする価値を高める道徳の授業が実践できたか。	B		
	4 生徒指導（豊かな心の育成プランの推進）		<ul style="list-style-type: none"> ・一貫した生徒指導を組織的に行い、規律ある態度の確立が同一歩調でなされている。引き続き個別の支援や対応が必要な児童に対して、早期に発見・協議・検討し、保護者や地域、関係機関とも連携した対応をしていく。 ・清掃指導は、再度、教職員間で確認していく。 	
18	講話朝会と学校のさまりによる一貫した生徒指導ができたか。	B		
19	校長講話から発達段階に応じ、学年・学級への指導ができたか。	A		
20	児童の実態の共通理解と時機を逃さない教育相談や就学相談、ケース会議ができたか。	B		
21	「時間いっぱいもくもくびかびか」を合言葉にした清掃指導ができたか。	B		
	5 交流教育（豊かな心の育成プランの推進）		<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動を通して、気づき、考え、話し合い、実践する児童が見られるようになってきた。 ・何気ない言葉や態度が、相手を傷つけていることを見逃さずしっかりと指導していく。 	
22	異年齢集団による様々な交流活動を通して、体験的に学ぶ学習活動の充実はできたか。	B		
23	全教育活動を通じた人権教育と平和教育の取組はできたか。	B		
	6 特別活動（豊かな心の育成プランの推進）		<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の学校課題研究に全力で取り組んでい 	

24	学級経営案の「学級における指導計画」に基づき、学級活動は計画的に行うことができたか。	B	ることが、大きな財産となっている。児童が目指す児童像に近づこう、引き続き研修を進めていく。
25	児童会活動やクラブ活動は計画的に実施され、児童の自主的・実践的な態度が育成できたか。	B	
26	学校行事は適切に実施することができたか。	B	
7 体力向上の維持増進(体力向上プランの推進)			<ul style="list-style-type: none"> ・体育部で、本校の体力の課題「握力」「投力」「跳躍力」についての解決策を提案し、授業の中で、あるいは日常的に、児童が体力向上できるようにしていく。
27	基礎基本を確実に定着させた、より楽しい体育の授業づくりができたか。	B	
28	進んで運動に親しませるための朝マラソンの取組ができたか。	B	
8 保健健康安全(体力向上プランの推進)			<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応に避難訓練を始め、基本的な初期動作が身に付き始めている。AEDの研修はしているが、緊急時に迷わず利用できるように繰り返し研修を重ねていく。
29	健康・安全についての理解が深まり、習慣化されるように指導できたか。	B	
30	保健目標を意識した健康指導ができたか。	B	
31	交通安全指導は、継続的・効果的に実施することができたか。	B	
32	避難、引取り、AEDを使用した訓練を実施し、確認した行動がとれるようになったか。	B	
9 学年・学級経営			<ul style="list-style-type: none"> ・学年会を、報告・連絡・相談だけでなく、指導方法の研修の場として資質向上を図ることができた。学年会の時間を確保していく。
33	学校・学年・学級経営の方針に基づき一貫性のある経営ができたか。	B	
34	意図的・計画的に学年・学級経営を進めることができたか。	B	
35	児童の自己実現を図る場を多く設定することができたか。	B	
36	いじめや差別のない学級づくりと人権教育はできたか。	B	
37	教室環境の整備に努力ができたか。	B	
10 校内研修など			<ul style="list-style-type: none"> ・低・中・高学年の授業を見合うことで、段階に応じた学級活動の指導の在り方を学ぶことができた。 ・来年度に向け、本年度の成果と課題をしっかりとまとめ、見通しのある研修を推進していく。
38	学校課題研究特別活動「めあてを明確にもち、所属する集団のために実践していく学級活動の創造」を目指して意欲的に取り組むことができたか。	B	
39	基礎基本の指導の上に、比べ合う段階の指導を充実させ、意見をまとめていく学級活動はできたか。	B	
40	研究組織や進め方は、研究内容に応じて、合理的・機能的にできたか。	B	
41	研究内容を日々の指導の中に生かし、自己の研鑽に努めることができたか。	B	
11 職務遂行・服務(目指す教師へむけて)			<ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談がよくできている。 ・仕事の順序立てを考え、協力し合いながら、ワークバランスの向上を図るようにする。 ・会議の内容をスリム化し、協議すべきことを厳選して臨むようにする。
42	意欲的に職務に取り組むことができたか。	B	
43	報告・連絡・相談はしっかりできたか。	B	
44	教育公務員としての自覚を持ち、公務員倫理のもと、服務の厳正に努めることができたか。	A	
45	ゆとりをもった出勤ができたか。(出勤簿への捺印を含む)	B	
46	服装、言葉遣い、挨拶等は適切にできたか。	B	
47	出張や研修の報告は速やかに行うことができたか。	A	
48	組織の一員としての自覚に基づき、一人一人の責任を果たすことができたか。	B	
49	ワークバランスを考え、自己の健康管理はできたか。	C	
12 環境、施設設備			<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検する場所と清掃場所とをリンクさせて、異常を気付きやすくしていくようにする。 ・清掃時以外の特別教室の鍵の取り扱いにつて、再度、確認徹底する。 ・清掃時間を確保し、後片付けまで、落ち着いて取り組ませるようにする。
50	校舎内外の施設設備の整理整頓、修繕は適切にできたか。	B	
51	清掃用具の片付けはしっかりできたか。	B	
52	教育効果を高める掲示ができたか。(学級・学年・特別教室など)	B	
53	安全点検・対応は適切にできたか。(担任→学年→安全部→管理職)	B	
54	美しい言語環境の推進はできたか。(対児童・保護者・来校者)	B	
55	職員室の共有スペースやロッカー、机上の整理整頓はできたか。	C	
13 家庭・地域との連携			<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園との交流、ミシンボランティアの導入等、年々充実してきている。 ・書道ボランティアの募集について、学校応援団会議で呼びかけ、支援を頂けるようにする。
56	保護者、PTAと協力できたか。	B	
57	保護者・地域・学校応援団の力を生かすことができたか。(ボランティア年間計画の実施等)	B	
58	保育園・幼稚園、中学校、高校、公民館や図書館などとの連携はできたか。	B	
14 学校事務			<ul style="list-style-type: none"> ・全校統一日に集金し、支払いができるように、改善したことは、効率的であった。 ・来年度は、集金の取りまとめの時間を確保し、日にちの設定を考慮していく。
59	現金の取り扱いは細心の注意が払われ、会計事務は適切に処理できたか。	A	
60	情報の管理は適切にできたか。	B	